備考 四月二十日（日曜）撒布

鐘紡爭議團へ戰鬪基金を送れ！

不景氣の暴風吹き荒む眞只中に、ブルヂョア階級は不景氣による一切の犧牲を無產大衆に轉嫁するために、强烈なる攻勢的手段を取りつゝある。**僞善者鐘紡資本家**も遂に假面を棄て、勞働階級に挑戰して來た。

急激なる**四割の賃銀値下！** しかして高率なる**三割五分の配當維持！** この暴擧はやがて全資本家階級の指南車となるのだ。

果然溫情主義の牙城を攻擊する烽火は全國に燃えあがつた。我等はこの鬪爭をして何處までも果敢に展開せしむるため、あらゆる支援を與へねばならぬ。**この戰績は全無產大衆の運命を支配するからだ。**

全國の勞働者、俸給生活者、無產市民、農民の大衆諸君に我等は衷心から訴へる。

一錢でも二錢でも送つて貰ひたい。それは直ちに我等が**階級的城塞の砲彈**となるのだ。

一九三〇年四月 鐘紡減給反對鬪爭同盟

代表委員

社會民衆黨	赤松克麿
日本勞働總同盟	松岡駒吉
日本海員組合	山川宗彬
官業勞働總同盟	渡邊善壽
海軍勞働聯盟	川島不二郎
海員協會	元廣昇
海友同志會	加藤清勝
日本農民組合總同盟	佐藤吉熊
全國俸給生活者協會	小池四郎
工友同志會	小山壽夫
日本借家人組合	匹田秀雄
民衆法曹團	阿部溫知
社會民衆婦人同盟	赤松常子

基金の取扱は 東京・芝・芝園橋際 社會民衆黨本部內（振替東京七五九八〇番） **鐘紡減給反對鬪爭同盟**

の交渉をなす能はず、從業員が次第に離反せんとする狀勢を喰止めんとした事

有利なる解決條件を獲得したる事を知るや、こんどは「單獨秘密解決」が怪しからんといふ事になつたのである。

かくして、彼等は、遂に支へ切れず五月五日、淀川工場從業員約百五十名

安藤正躬、入野巖兩君外三名の從業員代表者と、會社側、廣瀨工場長三宅參與等と構內、兵庫支店樓上に於て交渉の交換をなしたる時は、終始立會人として、斡旋したるが如きその他尤分會

尾に「解決の機運に迎ひたるに依り條件等の打合はせをしたし」と申込ましめたるに村尾は「神戸と大阪とは狀勢が違ふからそつちはそつちで勝手にやつて呉れ給へ」との返答ありしに依